

黒字：平成25年度第2次基本計画策定時のまま

赤字：ローリングで検討し加筆・修正した箇所



多摩六都科学館 第2次基本計画

平成26年度～平成35年度
(2014年度～2023年度)

ローリングプラン2016（案）

平成29年3月

多摩六都科学館組合

目次

1. 基本計画策定ならびに見直しにあたって

(1) 基本計画策定の背景と趣旨	1
(2) 基本計画の見直し	1
(3) 基本計画の策定方針	2
(4) 第2次で多摩六都科学館がめざす方向性	3
(5) 第2次基本計画「ローリングプラン2016」の基本方針	4

2. 多摩六都科学館の使命	5
---------------	---

3. 第2次基本計画の事業目標	6
-----------------	---

4. 事業別基本計画	7
------------	---

5. 事業評価の進め方	10
-------------	----

註	11
---	----

参考資料

(1) 多摩六都科学館基本計画策定ならびに見直しの経緯	12
(2) 多摩六都科学館基本計画策定委員会設置要綱	13
(3) 多摩六都科学館組合事業評価委員会条例	14
(4) 多摩六都科学館組合市民モニター設置要綱	15
(5) 平成28年度 中期事業評価のための圏域市民調査等調査報告（概要版）	16

(1) 基本計画策定の背景と趣旨

■多摩六都科学館基本計画とは

多摩六都科学館は、多摩六都圏域の5市（小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市）が共同で設置し、運営する地域のための科学館です。

多摩六都科学館基本計画は、多摩六都圏域における科学館の使命を明確にし、管理運営の基本方針と事業の体系を表す中長期計画で、科学館運営の指針として位置づけられるものです。

基本計画の計画期間は10年間で、平成16年度に基本計画（以下「第1次基本計画」という。）、平成25年度に新たな中長期計画（以下「第2次基本計画」という。）が策定されました（計画期間は、平成26年度から平成35年度の10年間）。

■第2次基本計画策定の経緯

平成25年度に、多摩六都科学館基本計画策定委員会（委員長：縣 秀彦 国立天文台准教授 参考資料11頁～12頁）を設置して、第1次基本計画の検証と現状分析から課題を抽出し、使命・目標の見直しや、評価制度と連動した計画の検討に取り組みました。

また、平成24年度から、多摩六都科学館組合（以下「組合」という。）の直営を改め、指定管理者制度が導入されたことに伴い、新たな管理運営体制を前提とした事業スキームに改定する必要がありました。

■第2次基本計画と関連計画との位置づけ

計画の策定に当たっては、第1次基本計画の基本理念を踏襲しました。

また、東京都や圏域5市の状況等を踏まえ、「地域の生涯学習の拠点構築」「利用者の体験学習の更なる充実」「運営の効率化の推進」「少子・高齢社会への対応」「アクセスの向上」「学校教育との連携」等を検討課題とします。

多摩六都圏域の上位計画となる第三次多摩北部都市広域行政圏計画「多摩六都広域連携プラン」（以下「広域連携プラン」という。）が平成28年3月に策定されました（多摩北部都市広域行政圏協議会）。第二次広域行政圏計画と同様、アクションプラン「知性と感性を豊かに育む多摩六都」「多摩六都の魅力を発信する」の実現を図るための拠点施設として位置づけされていますが、第二次よりもさらに多摩六都科学館に対する圏域の期待が高まっていることがわかります。

(2) 基本計画の見直し

計画策定から3年を経て、中期の区切りとなる平成28年度（2016年度）に中期事業評価を行い、現状に沿う実効性の高い基本計画の見直しを図ることになりました（第2次基本計画はローリング方式の中長期計画です）。

圏域市民と「ともにつくりあげる」「価値を共創できる」科学館であるために、科学館のステークホルダーに対して多様な市民調査を行い（参考資料16頁以降）、それらの結果も反映させました。また、多摩六都圏域の課題を解決するために、多摩六都科学館は何ができるのかを関係者と協議し、新たな役割を打ち立てていくことも検討しました。

今後は、本「多摩六都科学館第2次基本計画・ローリングプラン2016」を周知することによって、多摩六都科学館のめざす方向性を圏域市民と共有し、科学館事業だけでなく、市民参画型の「地域づくり」*1の拠点としての機能強化を図っていきます。

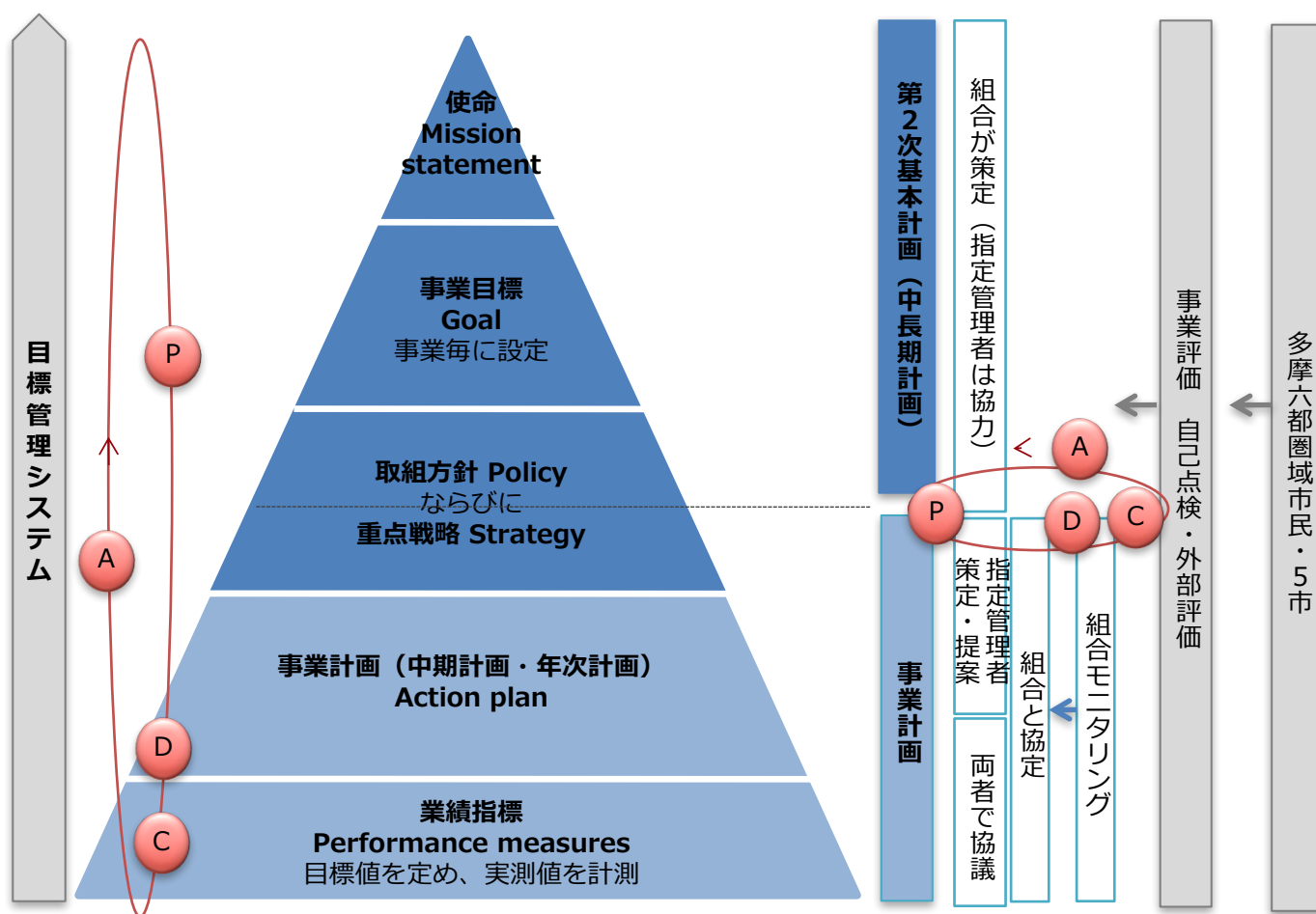
(3) 基本計画の策定方針

第1次基本計画では、使命を定めた上で個別計画を策定し事業を進めてきましたが、より実効性のある計画とするためには、以下の取組みが必要となります。

- ① 基本計画と事業評価を明確にリンクさせます
- ② 全体の目標管理システムを構築します
- ③ 中長期の観点から目標値を定め、経年変化を分析可能にします
- ④ 指定管理者制度の導入を踏まえて、組合と指定管理者の役割分担を明確にします

第2次基本計画は、公的施設が目標管理・実績評価が導入しやすい「戦略計画方式」で策定します

- 第2次基本計画は、使命・事業目標・取組方針ならびに重点戦略までとし、今後10年間の上位計画と位置づけます
- 事業計画は指定管理者が策定し、組合と協定を締結。業績指標は、組合と指定管理者と協議の上定めます
- 外部環境・内部環境の変化に応じて、毎年、戦略内容等の調整を行い、柔軟かつ弾力的に基本計画の運用を図り、持続可能な科学館運営を行うことを基本方針とします



* PDCAサイクル：事業活動を円滑に進めていくため、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）を繰り返して行っていくマネジメントサイクル

(4) 第2次で多摩六都科学館がめざす方向性

多摩六都科学館は、楽しく科学に触れられる科学館として親しまれ、多くの方々から支持される科学館へと成長してきました。開館してから20数年の間には、急激な利用者減や設置者の財政難など多くの課題に直面してきましたが、施設更新と運営の改革に果敢に挑み、克服してきました。その源には、平成14年度にまとめられた運営の基本理念が脈々と生きており、この理念は今後も多摩六都科学館の中核事業である科学館事業の根幹をなすものです。

多摩六都科学館が次にめざすのは、市民が主役となって、多摩六都圏域の市民や資源をつなぎ、身近な地域の価値に目を向け、多様な学びの場を創造することです。このために、多摩六都科学館は、ライフサイクルの成熟期を迎えた施設としてマーケティング戦略の大幅な見直しを図り、「市民と価値を共創できる事業体」をめざし、地域拠点事業にも取り組み、この3力年で急速に成果をあげてきましたが、さらに機能強化を図っていきます。

Phase 1	Phase 2	Phase 3
平成6年3月開館～平成15年度	平成16年度～平成25年度 第1次基本計画	平成26年度～平成35年度 第2次基本計画
科学館事業 (中核事業)	導入期	成長期
広域行政圏の拠点施設としてスタート ●平成2年1月「(仮称) 子供科学博物館基本構想書」 生涯学習・文化の振興が主目的 ●設置目的：「多摩六都科学館は、次代を担う子どもたちの夢を育み、科学する心を養うとともに、各世代にわたって生涯学習の推進を図り、文化の振興に寄与するために設置する。」 開館時のうれしい悲鳴 ●平成6年(1994年)3月1日 多摩六都科学館開館 ●売り物のプラネタリウムは、世界一の大きさのドームと最新式の投影機・70ミリ全天周映像による番組構成 ●3月だけで3万人が来館、平成6年度16万8千人の利用者 ●北多摩の目玉となる施設となる 急激な利用者減 ●次年度は12万5千人、以降急激に落ち込んで、5年目には10万人を切る瀬戸際に ●スタッフの努力がなかなか評価や成果に結びつかない時期 7年度目の改革 ●もう一度来てみたくなる科学館をめざし、常設展示を入れ替え、プラネタリウムのオリジナル番組を開発。ボランティア制度にも取り組む ●リピーターの獲得、市民参画のしくみづくりが功を奏し、7年目以降は徐々に利用者も増加	本計画や財政計画を策定 ●いち早く事業評価制度を取り入れて運営改善を実施 ●専門性と運営の効率性を同時に高めていくことをめざす 基本理念(今後も継承される科学館事業の理念) ①科学と人間の調和を目指す ②文化としての科学を追求する ③専門性とエンジョイメントの両立を図る(*) ④地域コミュニティの生涯学習拠点とする ⑤徹底した利用者中心を追求する 組合組織市の財政難・ハードの更新時期 ●事業経費が大幅に削減され、更なる変革を推進 ●開館から15年が経過し、プラネタリウム機器を更新する必要がある ●常設展示の在り方の検討をはじめ ソフト・ハードの大転換 ●管理運営者を直営から指定管理者にするプランと併せて運営形態の大改革を果たす ●平成24年に導入した新しいプラネタリウムの「ケイロンⅡ」は、最新の技術の粋を集め、「最も先進的なプラネタリウム」として世界に認定され内外の注目を集める ●常設展示は、「ラボ」を起点とするコミュニケーションの場に舵を切り、リニューアル事業は大きな成果をあげた (※プログラムの開発実施時の基本理念)	科学館の役割が変わりつつある ●東日本大震災や原子力発電所の事故を経験し、科学や科学技術とどう向き合っているかが問われる今、科学館の役割が変わりつつある ●専門家と市民の橋渡しをするだけでは済まなくなり、市民の科学リテラシー(生活者として科学や先端技術を理解・評価し利用できる力)を育む場が求められている 多摩六都科学館が次にめざすこと ●多摩六都圏域の人々や資源をつなぎ、身近な地域の価値に目を向け、多様な学びの場を創造すること ●地域への誇りと愛着を生み出す体験の場をつくりだすこと ●従来の科学館教育を基礎として、価値・ソフト・コンテンツ・ひと・地域を、市民とともに作りあげていく場となること ●ソーシャル・インクルージョンに基づき、誰もが楽しみ、交流できる場をつくりあげること ●自分の科学館・地域の科学館として市民から愛されること 今後も成長発展するためにマーケティング戦略の転換のとき ●ライフサイクルの成熟期を迎えた施設として、マーケティング戦略の大幅な見直しを図る時期に来ている。ターゲットの多様性の担保が必須 ●利用者の科学館体験を総合的に高めていくことをめざし、情報発信・プログラムへの申込み方法、参加体験の各プロセスに対するきめ細やかなフォロー等の改善を継続的に取り組んでいくことが必要

地域拠点事業

(5) 第2次基本計画「ローリングプラン2016」の基本方針

3カ年の進捗状況・事業環境の変化を分析し、今後の方針（残り7カ年で重視すべき機能や事業内容）を定めました。

この頁、追加

この方針に基づき、第2次基本計画を見直し、「ローリングプラン2016」の策定にあたりました。

多摩六都科学館の目標			3カ年の進捗状況		事業評価（外部評価）				事業環境の変化	今後の方針
					26	27	28	中期		
使命		多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいたいと思える多様な「学びの場」をつくりあげていきます。そして、多摩六都科学館は、活動の幅を広げ、皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざします		●圏域市民の「誰もが」楽しめるよう、幼児向け、シニア向けのプログラムも行い、利用者の年齢層を広げることができた。 ●年間利用者数が平成28年度は、25万3千人余りとなり、基本計画目標数18万人を大幅に上回る結果となった。 ●地域連携による企画展やイベントなどの取組が大きな成果をあげている。	A+	A+	A+	A+	●上位計画となる広域連携プランが策定され、多摩六都科学館の地域での役割が生涯学習以外に、多摩六都の魅力発信など地域づくりの拠点施設としても期待されている。 ●地域の研究機関や企業が、地域貢献の場や機会を求め、科学館との連携に積極的である。 ●圏域市民の利用ニーズが高まってきている。	●地域拠点事業を多摩六都科学館の基本事業として位置づける。 ●行政と圏域社会・市民をつなぎ、コーディネートするハブ*²機能を強化し、地域づくりに貢献できる科学館をめざす。 ●ソーシャル・インクルージョン*³に基づき、誰もが楽しめる科学館をめざす。 ●業績指標の目標値をより高いものに改める。
事業目標	1	科学館事業	科学を楽しみ世界と向き合う→「多様な学びの場の創出」に変更	●コミュニケーション重視による体験型プログラムが充実し、いつ来ても楽しめる科学館であると利用者から高評価を得ている。	A+	A+	A+	A+	●次期学習指導要領が平成30年度から先行実施される。 ●健康・食に対する関心が高まっている。	●「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた学びの場の創出をめざす。 ●健康や食など多様なテーマを科学的な切り口で事業展開。 ●地域づくりの基本知識として、地域の自然史を重視する。
	2	地域拠点事業	多摩六都の交流拠点	●ボランティアが科学館運営のパートナーとして成長している。	A+	A++	A+	A+	●コミュニティカフェの導入により、市民の交流活動の促進が期待できる。	●新たな地域コミュニティの交流の場、市民の社会参画の場としての機能を強化する。
	3		多摩六都の魅力発信	●地域連携・協働による事業によって魅力発信に貢献している。	A+	A+	A+	A+	●広域連携プランでも多摩六都の価値発信は課題となっている。	●圏域全体の地域資源* ⁴ の発掘・価値づけ・情報発信機能を強化する。
	4	マーケティング	愛着の持てるロクト* ⁵ へ	●圏域市民の認知度・利用度・満足度が明らかに高まっている。 ●市民モニター制度の導入。	A	A+	A	A	●多摩六都科学館の取組方針を圏域市民が知らない。 ●アクセス改善要求が未だに高い。	●社会とのよりよい関係づくりを推進。 ●アクセスの改善を継続的に実施。
	5	財政計画・体制整備	持続可能なしくみづくりを	●駐車場の土地購入、はなバスルートの変更、優秀なスタッフの確保など、順調に進んでいる。	A	A	A	A	●施設の老朽化が大きな課題。 ●改修費の財源確保も大きな課題。	●外部資金の導入策、財源確保策を早急に検討する。



多摩六都科学館の使命

Mission statement
めざすべき方向性・社会的な役割

多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、
誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える多様な「学びの場」をつくりあげていきます。
そして、多摩六都科学館は、活動の幅を拡げ、皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざします。

多摩六都科学館は、多摩六都（小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市）の5市が運営する科学館です。

多摩六都科学館の役割

「広域連携プラン」における

多摩六都科学館の政策的な役割

（上位計画で期待されている中期的な成果）

- 圏域の中心的な施設としてさらに魅力向上
- 圏域市民の生涯学習活動への支援の充実
- 子どもだけでなく圏域市民の生涯学習拠点
- 知識・情操を育む総合的な学習活動の支援
- 市域にとらわれない文化交流による多摩六都の文化醸成
- 地域連携の促進
- 多摩六都の地域資源の普及促進・魅力発信・情報発信
- 地域ブランドの普及促進
- 新たな産業・観光の魅力創出

多様な「学びの場」の創出

（直接的な成果）

- 遊びながら楽しく科学を学べる場
- 科学的な観点から身の回りの世界をひもとき、
多様なものの見方に気づき、新たな発見や疑問を見いだす場
- 生きる力となる創造的な考え方や体験が得られる場
- 科学と向き合い、科学が抱える課題を自分の問題として
考えることができる科学リテラシーを育む場
- 多摩地域の価値や資源を再発見・再評価する場

「地域づくり」に貢献

（長期的・間接的な成果）

- 次世代の人材育成・人づくり
- 地域の活性化（地域や市民を元気に）
- 地域コミュニティの再生
- 市民参画型の地域づくりの促進
- 市民参加型のオープンイノベーション（組織の
枠を超えて協働で技術革新）による多摩六都や
多摩地域の価値創造
- 市民の地域に対する愛着を育み、高める
- 地域住民の幸福度や自己実現度を高める 等

KPI／重点的な業績指標

利用状況・経営状況の業績指標

- 利用者数：年間21.5万人を
キープ（事業収支から算定）
利用料金収入：最低1億円を目標とする
- ＊経営指標に関しては、計画施行後、検討し設定

直接的な事業効果を測る業績指標

- 利用者・参加者の満足度
- 科学への興味・関心の喚起度
- 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価
- 科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化
が生まれたと答えた人の割合
- 多摩地域の価値を発見したと答えた人の割合

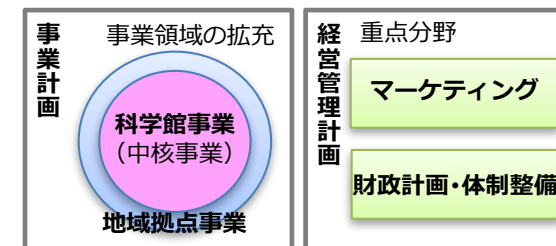
長期的な成果を測る業績指標

- 「多摩六都科学館の10年間の活動は、自分にとって、あるいは地域にとって価値あるものだったと思いますか」で「はい」と答えた人の割合
- 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価
- 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価
- 科学の担い手の育成
- 圏域市民の科学リテラシーの向上

3. 第2次基本計画の事業目標

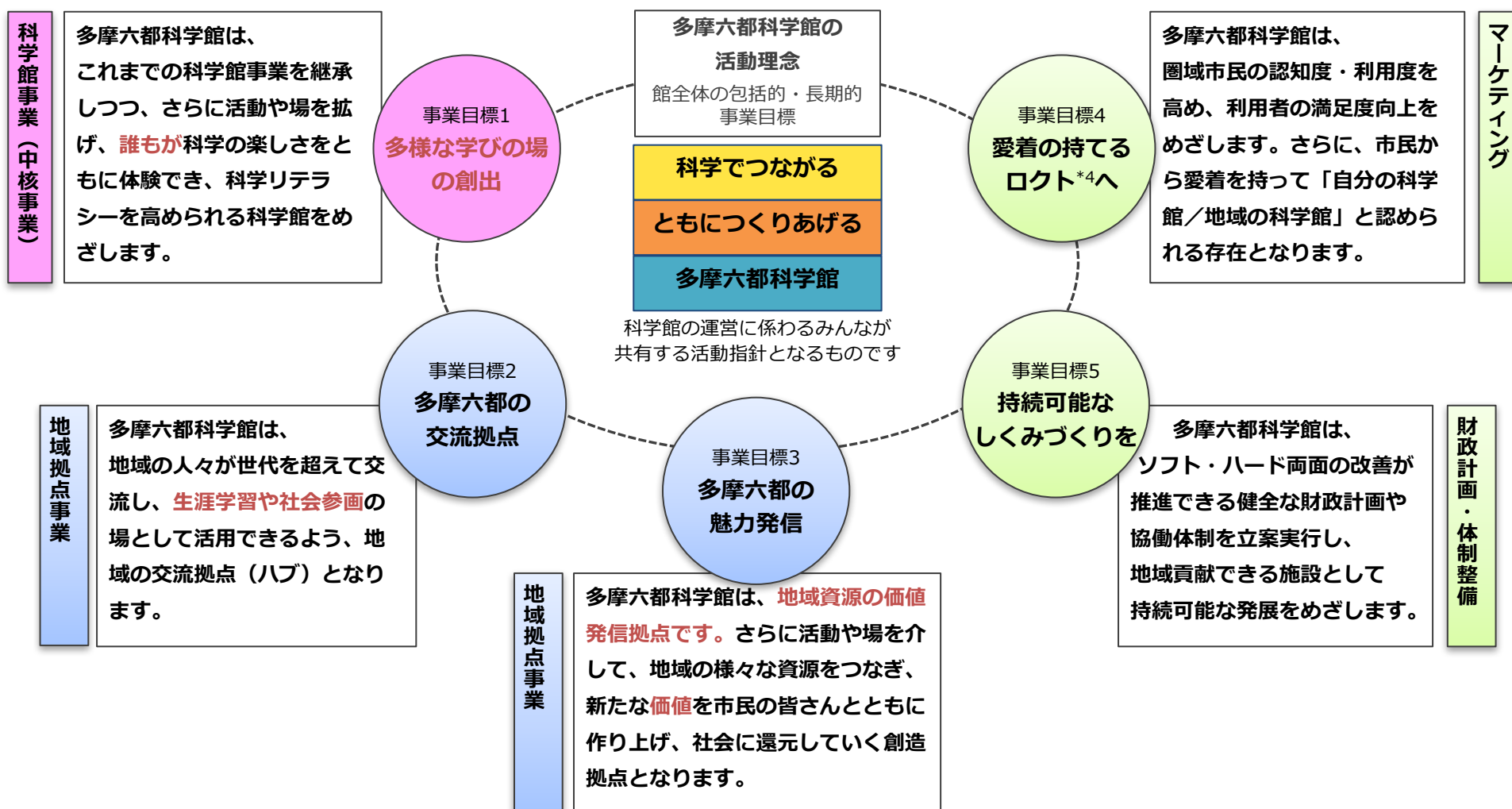
多摩六都科学館は、使命を達成するために、第2次基本計画では、次のことに取り組みます。

- これまでの科学館事業を中核に置きつつ、「地域づくり」への貢献をめざし、地域拠点事業に積極的に取り組みます。
- 誰もが楽しみ、交流できる科学館をめざして、ソーシャル・インクルージョンに基づく活動を推進します。
- 利用者の科学館体験を総合的に高めていくことをめざし、情報発信・プログラムへの申込み方法、参加体験の各プロセスに対するきめ細やかなフォロー等の改善を継続的に取り組んでいきます。
- 多摩六都科学館は、下記目標のもと、今後の活動を展開していきます。



多摩六都科学館の事業目標 -活動理念と5つの事業目標-

Goal これから10年の大きな目標



多摩六都科学館基本計画は、下記方針で運用を行っていきます。

業績指標
黒字：現行の事業評価で検証している指標
赤字：ローリングプランで追記した指標

事業目標 Goal	取組方針 Policy	重点戦略 Strategy	業績指標（案） Performance measures
これから10年の事業毎の大きな目標。使命を具現化するものとして、基本変更はせずに取り組みます。	これから10年の事業毎の取組方針。基本変更はせずに取り組みますが、進捗状況や外部環境・内部環境の変化によっては組合と指定管理者間で協議の上、適切に見直しを図っていきます。	これから10年の重点戦略。重要度●レベル1（必須）項目は、事業の根幹をなすものなので基本変更はせずに取り組みます。 ●レベル2（次なる取組）項目ならびに●レベル3（長期的な取組）項目は、組合と指定管理者間で協議の上、年間事業計画の中で決めていきます。また、組合・指定管理者のどちらが主体となって取り組むかも協議の上、決定していきます。	これから10年の業績指標。●重点指標は、事業の根幹をなすものなので、基本変更はせずに長期的に目標値を定め、実測していきます。●指標候補は、組合と指定管理者間で協議の上、年間事業計画の中で決めていきます。■長期的な成果指標は、市民調査を行い、3～5年毎に定点測定します。

多摩六都科学館は、使命ならびに各事業目標を達成するために、各事業に取り組みます。業績指標は、各年度の事業計画で適切に決めていくこととします。

		事業目標 Goal	取組方針 Policy	重点戦略 Strategy	業績指標（案） Performance measures
事業計画	科学館事業（中核事業）	事業目標1 多様な学びの場の創出	多摩六都科学館の中核事業です。「科学を楽しみながら学べる科学館」「子どもたちの科学する心を育む科学館」像はこれまで通り大切にしつつ、幅広い年齢層も利用できる施設へと徐々に領域を広げます。多くの方々が科学の楽しさに触れ、新たな価値を発見できる科学館像の実現をめざします。	●専門性を基本とした上で、科学を通して得られる楽しみや感動、実感を伴った理解、コミュニケーションを重視した事業を行います。 ●ソーシャル・インクルージョンに基づき、誰もが分け隔てなく参加して楽しめるよう、子どもだけでなく、高齢者も障がいのある方も、すべての人々がともに楽しめるコンテンツの開発を推進します。 ●展示や教育普及活動がさらに充実するよう、科学館事業の基盤となる収集・保存・調査研究活動の強化を図ります。特に地域の自然史（地域資源）を重要テーマと位置づけます。 ●多様なテーマ（健康・食・芸術など）を科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方でも来てみたいと思わせる事業展開を図ります。敷居を低くし、科学への興味を引き出す場をつくりだします。 ●館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを広げ、多くの方々が科学の楽しさを体験できるよう、アウトリーチ活動を推進します。	●常設展示・企画展示・プラネタリウム・参加体験型学習プログラムの満足度（80%以上） ●科学への興味喚起度（市民モニター定性評価） ●リピーターの比率の維持（50～60%） ●ファミリー層の新規利用者増員をめざした取組 ●調査研究活動数 ●ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取組 ●「主観的・対話的で深い学び」に対応するプログラムの開発や実施に向けての取組 ●多様なジャンルとのコラボレーション企画開発 ●地域連携イベントなどの実施 ●小中学校やその他の機関へのアウトリーチ活動の実施回数 ●圏域内のサテライトのあり方や可能性の検討 ■「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価 ■「科学の担い手」の育成 ■市民の科学リテラシーの向上 ■継続的なユーザーの評価
		多摩六都科学館は、これまでの科学館事業を継承しつつ、さらに活動や場を拡げ、ひとりでも多くの皆さんが科学の楽しさをともに体験でき、科学リテラシーを高められる科学館をめざします。			

凡例 重要度 ●：レベル1（必須） ●：レベル2 ●：レベル3

凡例 ●：重点指標 ●：指標候補 ■：長期的な成果指標

事業目標 Goal

事業目標2

多摩六都の交流拠点

多摩六都科学館は、
地域の人々が世代を超えて交流し、**生涯学習**や**社会参画**の場として活用できるよう、**地域の交流拠点（ハブ）**となります。

取組方針 Policy

圏域市民の生涯学習への支援活動の拡充をめざします。また、地域の課題解決に向けたコミュニティの再生や共助社会づくりをめざして、多様な人々に広く開かれた地域コミュニティの交流拠点としての機能（中間支援機能*6）強化をめざします。括弧付けで入れておくか？

重点戦略 Strategy

- 地域の人々が立場を変えつつも人生を通して、科学館ボランティアや友の会等の自主的な活動によって成長し、社会還元し、自己実現できるよう支援活動を行います。
- 圏域市民の生涯学習に対する支援の拡充を図ります。科学館内だけでなく、地域との連携を図り、生涯学習の機会をつくり、コンテンツの提供を図ります。
- 場づくりだけでなく、地域の多様な主体がつながるためのきっかけづくりや関係を深めるための交流事業を行います。
- コミュニティカフェを科学館に導入（平成29年3月17日事業開始）。新たな地域コミュニティの交流の場・市民の社会参画の場として事業展開を図ります。

業績指標（案） Performance measures

- ボランティアの科学館事業への支援延べ人数
- ボランティア主催事業回数
- ボランティアによるプログラム開発
- ボランティアの満足度
- 生涯学習に係わる事業への取組
- 地域づくりのための交流事業の実施
- 市民活動支援事業
- カフェ利用者数
- カフェ利用者ならびにカフェ事業者の満足度
- 生涯学習施設としての評価
- 地域の交流拠点としての評価
- 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」の評価

事業目標3

多摩六都の魅力発信

多摩六都科学館は、
地域資源の価値発信拠点です。さらに地域の活動や場を介して、様々な資源をつなぎ、**新たな価値**を市民の皆さんとともに作り上げ、社会に還元していく創造拠点となります。

3カ年で地域連携や地域資源の価値発信は一気に加速し、圏域における拠点施設としての重要度も高まりました。次のステージでは、さらに地域の多様な主体と連携を図り、5市全域の地域資源の価値を学術的に掘り起こし、その価値を圏域内外に周知させていく発信機能の強化を図ります。これによって、圏域市民が地元に着と誇りを持ち、圏域外の人々が興味を持ち訪れたいと思える地域になることが最終目標です。

- 地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の学術機関や地域産業、市民団体などとの連携を深め、協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信していく活動を行います。
- 学校や子どもたちと地域をつなぐ「地域を知る」学習プログラムなども実施します。
- 「地域づくり」の第一歩として、地域資源と圏域市民を「つなぐ・めぐる・知る」ための事業を行います。例えば、食・農・健康をテーマにしたローカルツアーや研究所や地元企業の見学会など。
- さらに新たな地域資源をつくり上げ、こうした活動を通して、地域の人々の「地域参画力」を高めていきます。
- 多摩六都圏域だけでなく、多摩地域全体にも視野を広げ、気づかずに見過ごしている資源（地域づくりを実践できる創造的な人材やソフトも含む）の掘り起こしを行い、共有できるしくみを整備します。
- 長期的・間接的な効果として、科学の担い手の育成、新たな産業創出も展望として掲げ、事業の展開を図ります。

- 地域資源をテーマとした企画展の開催
- 常設展示つながらスポットの充実
- 地域資源をテーマとした学習プログラムの開発
- 地域資源をテーマとしたイベントの実施
- 上記利用者・参加者の満足度
- 多摩六都の価値を見いだせる事業の実施（市民モニター定性評価）
- 圏域市民を対象とした地域づくりに関する研修会の実施
- 科学教育のためのコンテンツやプロダクトなどの開発
- 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価
- 「地域資源を生かした運営」に対する評価

凡例 重要度 ●：レベル1（必須） ●：レベル2 ●：レベル3

凡例 ●：重点指標 ●：指標候補 ■：長期的な成果指標

		事業目標 Goal	取組方針 Policy	重点戦略 Strategy	業績指標（案） Performance measures
経営管理計画	マーケティング	事業目標4 愛着の持てるロクトへ 多摩六都科学館は、 圏域市民の認知度・利用度を高め、利用者の満足度向上をめざします。さらに、市民から愛着を持って「自分の科学館／地域の科学館」と認められる存在となります。	圏域市民の認知度・利用度・満足度のアップをさらにめざします。長期的には、圏域市民の科学館に対する価値観を高めることをめざします。 多摩六都科学館が推進している取組方針を圏域市民に理解してもらえる機会や接点を作り、社会とのよりよい関係づくり（パブリック・リレーションズ機能）の強化を図ります。	●利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取組みを中長期の観点から推進します。利用者を第一に考え、常に質の高いサービスを提供します。 ●市民や利用者の声を長期的に反映させるしくみ、ダイレクトに運営側に取り込めるしくみとして、市民モニター制度などの拡充を図ります。 ●多摩六都科学館が圏域市民のために運営されている施設であることや今後の取組方針を周知し、理解者・賛同者を増やしていく活動を積極的に展開します。 ●これまで同様、利用者向けのマーケティング戦略も重視するが、今後は未利用者向けや地域づくりに携わっている圏域市民向けの対応策も検討します。また、広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開します。 ●利便性を高めるために、さらにアクセスの改善を図るため、バス運行の導入を検討します。 ●障害のある方も、外国の方も、誰もが利用しやすいインクルーシブな（包括的な）ソフト・ハードの整備を図ります。	●利用者の満足度（総合的な満足度） ●非利用者への利用促進策の実施 ●アクセス・交通の便改善に向けた取組 ●市民モニター制度の実施 ●ロクトメンバーズやクラブ会員、ボランティアによるモニタリングの実施 ●誰もが利用しやすい事業の実施（定性評価） ●科学館の取組周知活動の実施 ●マーケティング戦略の作成 ●広報戦略の策定 ■圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度 ■「自分の科学館／地域の科学館として価値ある存在」としての評価 ■「交通の便を改善し利用しやすい科学館」としての評価
	財政計画・体制整備	事業目標5 持続可能なしくみづくりを 多摩六都科学館は、ソフト・ハード両面の改善が推進できる健全な財政計画や協働体制を立案実行し、地域貢献できる施設として持続可能な発展をめざします。	今後も持続可能な成長・発展ができるよう、ハードだけでなくソフトの質的充実を図ります。そのために、組合・指定管理者・支援者・圏域市民がそれぞれの立場で、財源の確保や体制整備に取り組んでいきます。	●今後、科学館の取り組むべき基本事業に地域拠点事業を加えることとします。 ●負担金・利用料金以外の外部資金の導入・活用策（寄附金、助成金、補助金の確保の他、賛助組織など）を検討します。 ●施設・設備の老朽化対策と長寿命化を図るために、中長期の修繕計画を策定し、財源の確保を探ります。 ●地域連携・協働体制は、組合・指定管理者などそれぞれの立場で、共ににつくりあげていくしくみの強化を図っていきます。 ●常に魅力的な施設であるために展示やプラネタリウム等の定期的なリニューアルが実現できるよう財政計画を検討します。 ●継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備も長期的観点に立ち、財源確保を図ります。	●助成金獲得に向けた取組 ●外部資金の導入策・活用策の検討・実施 ●人的ネットワーク充実に向けた取組 ●将来的な体制整備の検討 ●効率的・効果的な事業サイクルへの取組 ●プログラム開発に向けた市民参画型の取組 ●プログラム開発の継続性・有効生 ●他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成の実施 ●施設の長寿命化計画の検証・実施 ●優秀な人材の確保および育成（研究者・学芸員の充実） ●持続可能な財政計画・体制整備の推進（定性）

凡例 重要度 ●：レベル1（必須） ●：レベル2 ●：レベル3

凡例 ●：重点指標 ●：指標候補 ■：長期的な成果指標

(1) 基本計画の見直しと自己評価

- 基本計画は、各年度毎に見直しを図ります。
- 重点戦略ならびに業績指標は、年度毎に定める事業計画の中で、組合と指定管理者が協議の上、決定します。
- 重点戦略も指標数は多くせず、メリハリをつけて決定し、戦略的に事業に取り組めます。
- 重点戦略ならびに業績指標だけでなく、事業目標・取組方針も、進捗状況や外部環境・内部環境の変化に応じて、見直しの対象とします。
- 設定した目標や取組が達成できなかった場合は、その理由を環境要因も含めて分析し、今後の取組に生かします。
- 多摩六都科学館は、これまで同様、自己評価を実施します。
- 圏域市民に対し、説明責任を果たすため、これまで通り、事業計画ならびに事業評価の結果を公開します。
- 基本計画の中期的な区切りは、指定管理者制度と整合させ、下図のように設定します。

	第2次基本計画の期間（H26～H35）									
年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
中期	3力年			3力年			3力年			1年
	指定管理期間 H24～H28			指定管理期間 H29～H35（7力年）						

(2) 事業評価委員会による外部評価

- これまで同様、組合の事業評価委員会による外部評価を実施します。
- 事業評価委員会では、下記について評価し、多摩六都科学館の事業が有効かつ効率的に実施されるよう監理します。評価結果は、圏域市民への説明責任を果たすため、これまで通り公開します。
- 毎年策定される事業計画の妥当性（本基本計画に沿う内容か、目標設定は妥当か）を検証します。
 - 各年度毎の事業の結果・成果の報告を受け、使命・事業目標・重点戦略・業績指標の達成度を検証します。
 - 次年度の取組方針についても検証します。
 - 事業の有効性については、専門家の立場から質的な評価も行います。

(3) 市民モニターによる定性評価の実施

- 事業結果や定量的な調査では測れない指標は、圏域市民の立場から定性的に評価を行うこととし、平成26年度から市民モニター制度を導入しました。
- また、市民モニターは、定性的な実績指標について、中期的な観点から、年度毎の評価を行うだけでなく、下記の役割も期待できます。
- 多様な立場のステークホルダーからの支援を継続していくために、変化していくニーズや価値観を把握する必要があります。そこで、市民モニターを通して圏域市民の「支援開発志向」を定点で調査できる手段としても活用し、支援体制や協力体制のあり方やニーズの把握に役立てることが出来ます。
 - 利用者や圏域市民の声をダイレクトに運営に取り込めるしくみとして役立てることが出来ます。
 - 今後は、圏域市民に近い立場で科学館と多様な団体や機関をつなぐ役目や、地元に住まないスタッフに地元住民の声を代弁して伝える役目も期待出来ます。

***1：「地域づくり」**

少子高齢化や人口の減少の影響、あるいは生活スタイルの変化や人間関係の希薄化、地域活動への無関心などにより、地域コミュニティの衰退が危惧され、地域の課題が増大化・複雑化してきている。このような状況を踏まえ、地域の活性化、地域再生、活力あるまちづくり、地域ブランドの構築などをめざして、住民が主体となって地域の課題を解決していく活動や取組が各地で行われるようになってきている。2000年以降は、多様な主体が総合的に新たな枠組で取り組む傾向が高まり、「地域づくり」という言葉が使われることが多くなっている。多摩六都科学館は、行政枠やジャンルを超えて広域かつ総合的に、圏域市民が主体的に係わり、地域社会の課題を解決していくために貢献できる科学館をめざしている。そのため、取組姿勢と一致する「地域づくり」という言葉を用いることとした。

***2：「ハブ」**

科学館が車輪の軸のようになって、周囲のコミュニティーを相互に結びつける機能を表す。地域のさまざまな主体・組織の人的交流や情報の結節点となる場所、あるいはさまざまなネットワークの拠点施設のひとつとなることを指す。

***3：ソーシャル・インクルージョン**（社会的包含・包摂／social inclusion）

日本では、2000年「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」（厚生労働省）の報告書において、従来の伝統的な貧困や障がいの枠組みによる社会福祉のとらえ方では不十分であることが指摘された。すべての人が地域において、健康で文化的な自立した生活を送るために、誰もが排除されない・差別されない社会の実現を目標としているソーシャル・インクルージョンが新たな福祉課題に対応するための理念として位置づけられ、共に生き・支え合う社会づくりが重要視されている。

***4：「地域資源」**

地域に存在する有形・無形にとらわれずすべての資源を指し、自然・歴史・文化的な資源だけでなく、科学技術や産業、観光等、幅広い分野を網羅するもの。ひと、ノウハウや知見などのソフトも含む。

●多摩六都圏域の地域資源と考えられる例

- ・自然：玉川上水（小平市）、八国山（東村山市）、金山緑地公園（清瀬市）、南沢湧水（東久留米市）、東大農場・演習林（西東京市）等
- ・大学：嘉悦大学、白梅学園大学・白梅学園短期大学、津田塾大学、文化学園大学、一橋大学、武蔵野美術大学（小平市）、明治薬科大学・**日本社会事業大学**・**国立看護大学校**（清瀬市）、武蔵野大学（西東京市）等
- ・研究機関：東京大学原子核研究所、東京大学宇宙線研究所（西東京市：小柴昌俊博士、小林誠・益川敏英両博士、**梶田隆章博士**のノーベル物理学賞受賞に関係した研究施設、いずれも現在は移転）、東京都薬用植物園（小平市）等
- ・芸術・文化：平櫛田中（小平市）、石田波郷（清瀬市 俳人）等
- ・アニメ・映画：「となりのトトロ」トトロの森八国山・「あん」（東村山市）、「海よりもまだ深く」（清瀬市）、「めぞん一刻」・「河童のクウと夏休み」（東久留米市）等
- ・スポーツ：FC東京（小平市）等
- ・ひと：企業、研究・教育機関でキャリアを積んだ方、子育てやお年寄りとの交流が好きな方、地域づくりに熱意のある方 等

***5：「ロクト」**

現行の指定管理者が設定した愛称。ロクトの他に Rokuto と表記する場合もある。この愛称は定着しつつあるので、本基本計画でも継承し、事業目標のキャッチコピーとして採用。

***6：中間支援機能**

圏域の多様な団体(組織)の間にたって様々な活動を支援する機能。具体的には、協働・連携を推進する上で、市民と市民、市民と行政、行政と企業など、多様な主体の間に立って、つなぎ役として中立的な立場でそれぞれの活動を支援し、コーディネートする機能をさす。

持続可能な地域社会の実現に向けて、組織が持つノウハウやネットワーク、情報などを活用した中間支援業務を行う組織や機関に期待が高まっている。

(1) 多摩六都科学館基本計画策定ならびに見直しの経緯

日程	名称	内容・参加者
平成25年 5月28日	第1回 基本計画策定委員会	有識者及び市民からなる委員の初会合。これまでの計画、事業評価等を確認し、第2次基本計画策定の道筋を定めた。
平成25年 6月13日	第1回 基本計画策定委員会専門部会	戦略計画策定ワークショップを開催し、様々な立場の職員、ボランティアが加わりグループ討議と発表を行って、科学館の現状と将来像の共有化を図った。 ・科学館の現状分析（SWOT分析） ・戦略の方向性の検討 ・使命、中長期目標の検討
平成25年 8月26日	第2回 基本計画策定委員会	第1回専門部会の報告と市民調査の中間報告を行い、多面的な現状分析に基づき、包括的な使命・中長期目標の設定、戦略の展開等について協議した。
平成25年 10月3日	第3回 基本計画策定委員会 第2回 基本計画策定委員会専門部会	市民調査結果の報告の後、第2回専門部会を兼ねて、ワークショップ形式でグループ討議・発表を行った。計画策定の背景、目的、市民調査等の分析を説明し、3グループに分かれて使命・中長期目標・戦略等の詳細な協議を行い、発表した。
平成25年 10月24日	第3回 基本計画策定委員会専門部会	基本計画のたたき台の検討を行った。
平成25年 12月9日	第4回 基本計画策定委員会	これまでの検討を総括し、素案を検討した。また、市民調査のクロス集計結果等の新たなデータを基に文言や考え方の調整を図った。

10月24日以降、平成26年1月20日計画が確定するまで、館長、現場スタッフ、ボランティアの方々、基本計画策定委員、事業評価委員、組合議員等へ個別にヒアリングを実施。また、第2次基本計画素案に対してパブリックコメントも実施し（平成25年11月26日～平成25年12月25日）、様々な関係者が「ともにつくりあげる」「価値を共創できる」基本計画の策定に努めた。

日程	名称	内容・参加者
平成28年 8月～平成 29年3月	圏域市民調査等の実施	ローリングプラン2016策定の基礎資料とすることを目的に実施。圏域市民にとっての施設の有意義性、非利用者への受け止められ方等を探った。また科学館市民モニターの意見も踏まえ、今後の圏域における科学教育・生涯学習活動への市民の期待や要望、ニーズを抽出した。
平成29年 3月28日	平成28年度 第3回 多摩六都科学館運営協議会	運営協議会の議案のひとつとして、「ローリングプラン2016」の素案の方向性について協議した。中間支援機能を表明にすることによって、地方自治体と市民をつなぐ役割が明確になり、圏域の企業や機関・団体が科学館と協働体制が取りやすくなると賛同を得られた。
平成29年 6月1日	第1回 多摩六都科学館組合 事業評価委員会	検討中である「ローリングプラン2016」の素案について報告し、意見交換を行う。
平成29年 7月3日	平成29年第1回 多摩六都科学館組合 議会臨時会	多摩六都科学館組合議員に中期事業評価のための圏域市民調査の結果を報告

(2) 多摩六都科学館基本計画策定委員会設置要綱

平成25年4月1日制定

(設置)

第1 多摩六都科学館組合（以下「組合」という。）が多摩六都科学館の管理運営を計画的に推進することを目的とし、多摩六都科学館基本計画を策定するため、多摩六都科学館基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

(1) 基本計画の策定に関すること。

(2) その他組合管理者が必要と認める事項に関すること。

2 委員会は、前項の所掌事項に関し検討を行い、基本計画案を作成して組合管理者に報告する。

(組織)

第3 委員会は、6人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから組合管理者が委嘱する。

(1) 識見を有する者

(2) 博物館・科学館の運営に関する専門家

(3) 前号に掲げる者のほか、計画策定に関係する機関に属する者

(4) 多摩六都圏域に居住する市民

(5) その他組合管理者が必要と認める者

(役員)

第4 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の相互により選出する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席又は資料の提出を求めることができる。

4 委員が会議に出席したときは、予算の範囲内で謝金を支払う。

(専門部会)

第6 委員会は、下部組織として専門部会（ワーキングチーム）を置く。

2 専門部会は、第2条に掲げる所掌事項について調査・検討のうえ、計画案の作成を行い、その結果を委員会に報告するものとする。

3 専門部会は、委員会の指名する者をもって構成する。

(設置期間)

第7 委員会及び専門部会の設置期間は、第2条に掲げる報告をもって終了する。

(庶務)

第8 委員会及び専門部会の庶務は、組合管理課において処理する。

(委任)

第9 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は組合管理者が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

多摩六都科学館基本計画策定委員会 委員名簿

(敬称略 所属は平成25年当時)

区分	氏名	所属
学識経験者（天文普及）	◎ 縣 秀彦	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台天文情報センター准教授
行政関係者	飯野 雄資	東京都総務局行政部多摩振興担当課長
学識経験者（教育学）	○ 小川 義和	独立行政法人国立科学博物館 学習企画・調整課長、筑波大学客員教授
学識経験者（科学館）	高橋 真理子	山梨県立科学館天文アドバイザー
学識経験者（行政経営）	玉村 雅敏	慶應義塾大学 総合政策学部准教授
圏域市民	福本 志濃夫	小平市在住市民

◎：委員長、○：副委員長

(3) 多摩六都科学館組合事業評価委員会条例

平成16年3月3日 条例第2号

この頁、追加

(設置)

第1条 多摩六都科学館の事業評価を行うため、多摩六都科学館組合事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、管理者の諮問に応じ、次の事項について調査し、検討し、及び答申する。

(1) 主要な事業成果の検証について

(2) その他管理者が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、学識経験を有する者のうちから、管理者が委嘱する委員5人以内で組織する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会の会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(招集等)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、多摩六都科学館組合事務局において処理する。

(補則)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この条例は、平成16年4月1日から施行する。

多摩六都科学館組合事業評価委員会委員名簿（第6期）

多摩六都科学館組合事業評価委員会条例（平成16年条例第2号）第3条の規定に基づき、5人の委員に委嘱している。

(敬称略)

役 職	氏 名	所 属
委員長	◎柴田 徳思	東京大学 名誉教授
副委員長	○桧森 隆一	北陸大学 副学長・教授
委員	小谷 泰弘	東久留米市在住市民（科学館ボランティア会代表）
委員	坂本 和弘	多摩動物公園 副園長兼教育普及課長
委員	杉浦 幸子	武蔵野美術大学 芸術文化学科教授

◎：委員長、○：副委員長

(4) 多摩六都科学館組合市民モニター設置要綱

平成 27 年6月1日 決定

この頁、追加

(目的)

第1 多摩六都科学館組合(以下「組合」という。)における事業評価活動を推進し、市民の理解と協力を得てニースに適った効用の高い科学館運営を図ることを目的として、市民モニターを置く。

(職務)

第2 市民モニターは、次の職務を行う。

- (1)組合の依頼する調査等に協力し、意見を述べること。
- (2)市民モニター会議、研修会等に参加すること。
- (3)その他組合の事業評価活動と広聴活動推進に関して必要な事項に協力すること。

(定数及び委嘱)

第3 市民モニターの定数は、10名以内とする。

2 選任は、原則として公募により、年齢、地域等を考慮して、組合管理者が委嘱する。

(資格要件)

第4 市民モニターは、次の要件を満たす者とする。

- (1)満 20 歳以上の組合構成市の市民であること。
- (2)組合の公職者及び組合構成市の職員でないこと。

(委嘱期間)

第5 市民モニターの委嘱期間は、1年以内とする。

(委嘱の取消し)

第6 市民モニターが、次の各号の一に該当するときは、委嘱を取り消すものとする。

- (1)第4に定める資格要件を失ったとき。
- (2)辞退を申し出たとき。
- (3)職務の遂行がてきなくなったとき。
- (4)その他組合管理者が取り消す必要があると認めたとき。

(報償費)

第7 市民モニターに対しては、予算の範囲内で謝礼を支払うことができる。

(庶務)

第8 市民モニターに関する事務は、組合管理課が行う。

2 管理課長は、必要に応じて、多摩六都科学館指定管理者と次に掲げる事項を協議する。

- (1)市民モニター会議・調査の課題の決定。
- (2)その他本業務運営に関すること。

(委任)

第9 この要綱に定めるもののほか、必要な事項については組合管理者が別に定める。

附則

この要綱は、平成 27 年6月1日から施行する。

多摩六都科学館組合事業評価 市民モニター名簿

市民モニターの人選は、多摩六都科学館のステークホルダーのうち、中長期的な観点から科学館事業を定性評価できる圏域市民10名の方々に依頼を行った。

(平成29年3月現在)

No.	住所・所在地	性別	ステークホルダー種別
1	小平市在住	女性	市民・友の会・公募
2	小平市在住	女性	市民・友の会・公募
3	清瀬市在住	男性	市民・友の会・公募
4	小平市在住	女性	市民グループ
5	西東京市在住	女性	市民グループ
6	西東京市在住	女性	市民グループ
7	東久留米市在住	女性	事業協力者
8	東村山市在住	女性	事業者
9	西東京市在勤	男性	地元機関・協力者
10	西東京市在勤	男性	地域メディア

(5) 平成28年度 中期事業評価のための圏域市民調査等調査報告（概要版）

16～28頁 調査結果 2016年度版に差し替え

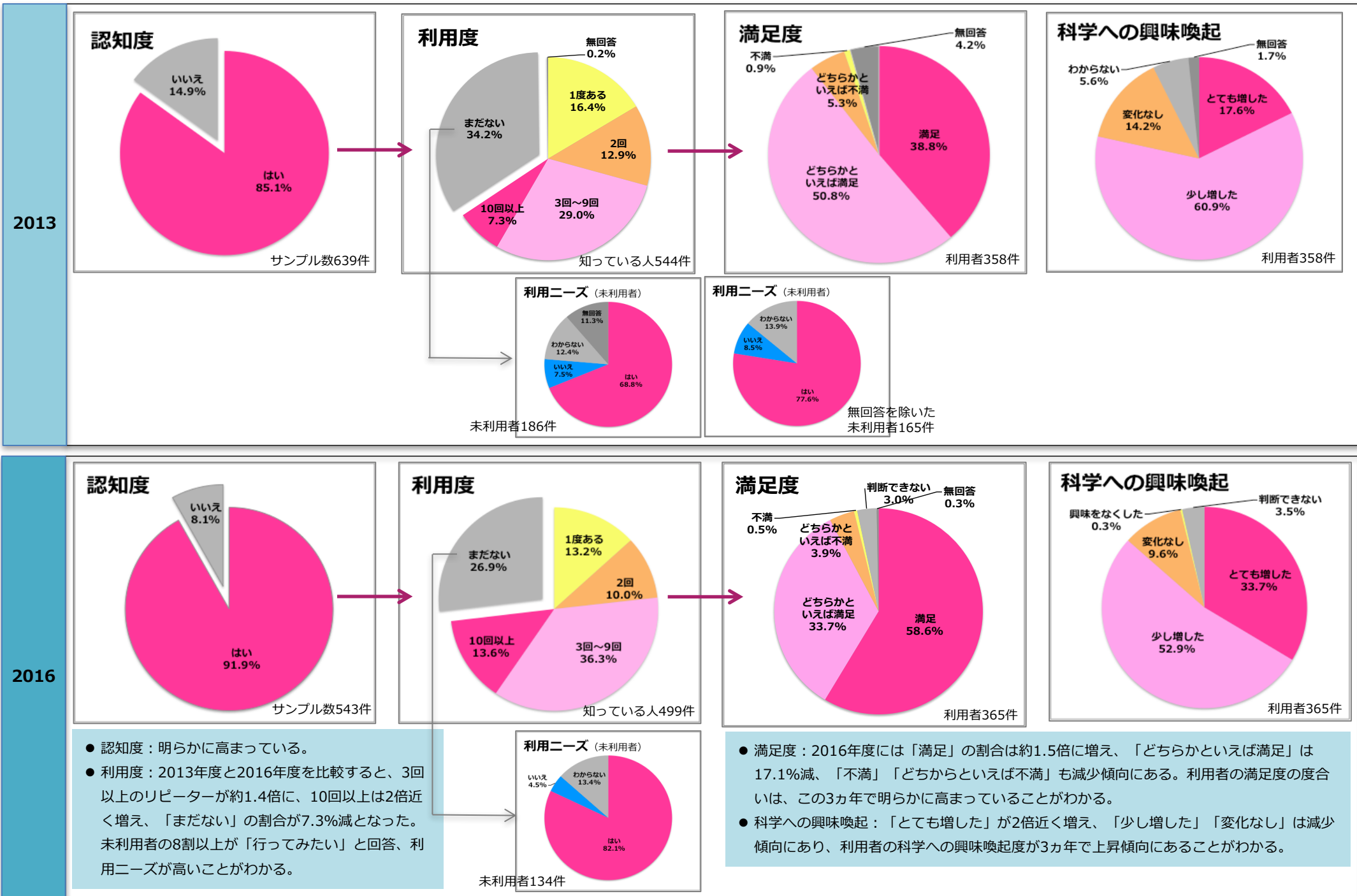
調査目的

多摩六都科学館第2次基本計画（計画期間：平成26年度～平成35年度）の中間見直しの基礎資料とすることを目的に実施し、圏域市民の日常生活における施設の有意義性、非利用者にとっての科学館の受け止められ方等を探るものである。同時に科学館市民モニターの意見も踏まえ、今後の圏域における科学教育・生涯学習活動への市民の期待や要望、ニーズを抽出する。

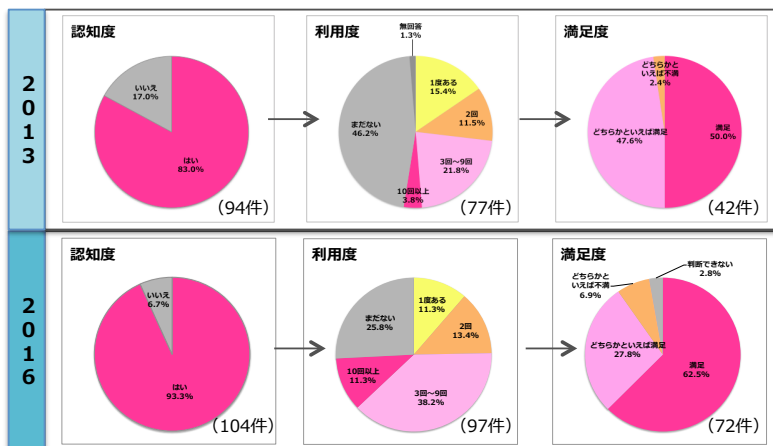
調査概要

調査名	調査項目	調査対象				調査方法	調査場所	実施時期	サンプル数	
1 圏域市民調査	● 中期の事業評価 ● 多摩六都科学館の認知度・利用度・満足度 ● 満足の理由・改善点・ニーズ ● 認知媒体 ● 利用しなかった理由 ● 今後期待している科学館像 等	多摩六都圏域 5市の市民 ●小平市 ●東村山市 ●清瀬市 ●東久留米市 ●西東京市 幅広い年齢層から意見聴取		利用者	未利用者	● 市内の施設を日常的に利用している市民 ● 幅広い年齢層（中学生以上）	アンケート タブレット使用	圏域の 公共施設 21箇所 1市4～5箇所	H28年 8月28日～ 10月16日 延べ22日 1館2日間実施	目標： 1館25件以上 合計500以上 実績：543件
2 未利用者調査	● 認知媒体 ● 利用しなかった理由・阻害要因 ● 利用意欲向上策・ニーズの把握 ● 中期の事業評価 ● 今後期待している科学館像 ● 未利用者にとっての科学館の存在意義 等				未利用者	● 多摩六都科学館の名前は知っているが1度も来館したことがない人 ● 5市の市民・成人・1市1～3名 ● 属性別：子育て世代・シニア層、会社員・自営業自由業・専業主婦 ● エリア別：科学館へのアクセスの利便性の善し悪しで2つにエリア分け	フォーカス グループ インタビュー 募集：縁故法 2回実施 →利用後の WEB アンケート	圏域の 公共施設 の会議室 清瀬駅ならびに田無駅周辺	H28年12月	目標： 12名以上 実績：13名
3 市民モニター	● 事業評価 ・ 中期的な指標5項目 ・ 単年度毎の指標4項目 ● 改善提案等			利用者		● 5市の市民10名 ● 科学館のステークホルダーから広く招集	グループ インタビュー WEB アンケート	科学館 会議室	年2回実施 H28年12月 H29年3月	10名 昨年度から継続
4 事業者	● 中期の事業評価		事業者			● ボランティア ● 指定管理者 ● 多摩六都科学館組合	WEB アンケート		H28年12月 ～H29年2月	

1. 圏域市民調査 (1) 多摩六都圏域における科学館の認知度・利用度・満足度 ①全体 2013年度と2016年度の比較(3カ年の変化)

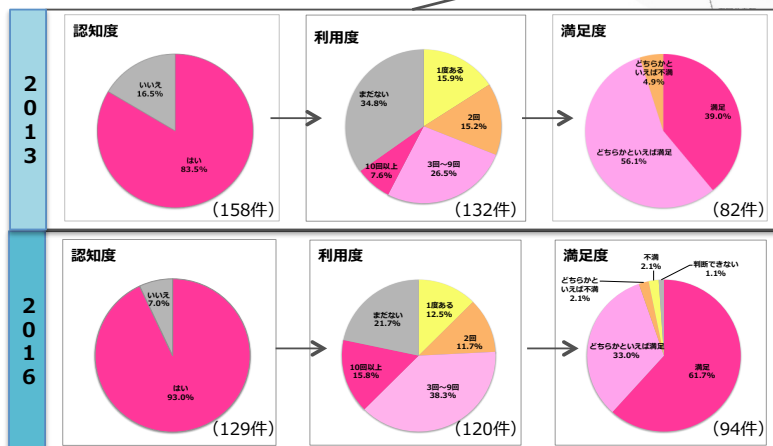
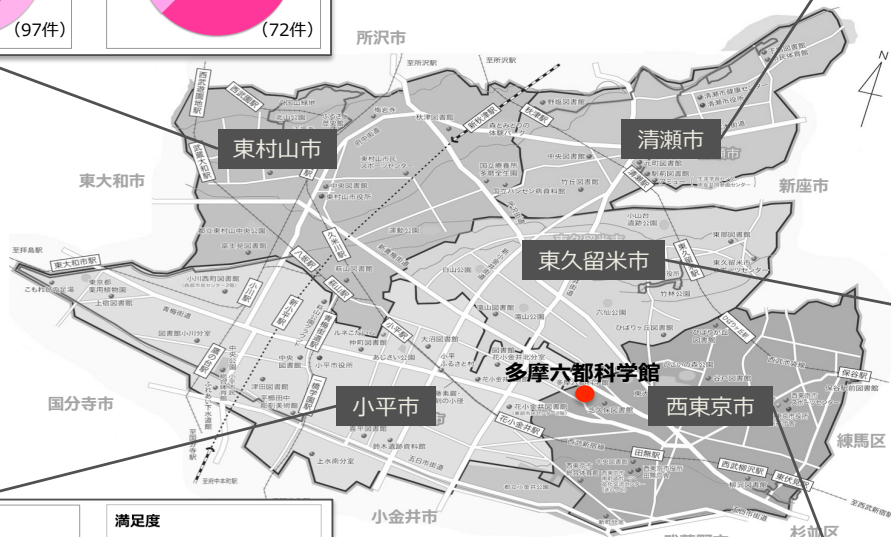


1. 圏域市民調査 (1) 多摩六都圏域における科学館の認知度・利用度・満足度 ②自治体別 2013年度と2016年度の比較 (3カ年の変化)

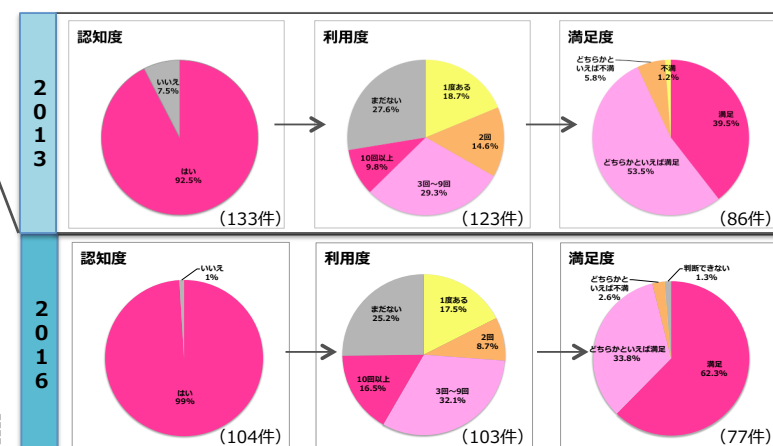
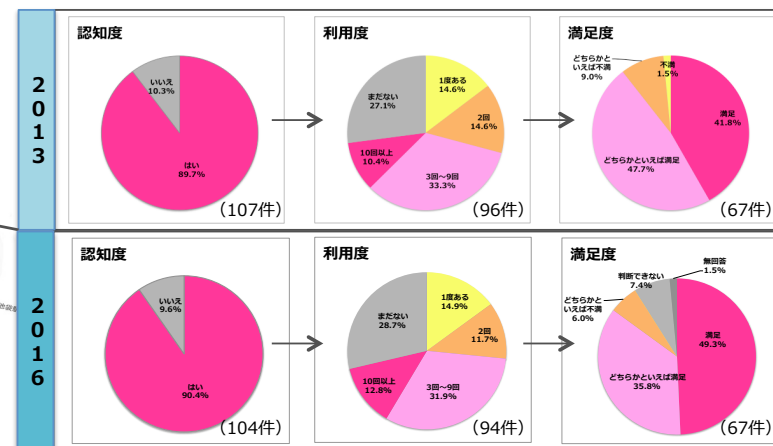
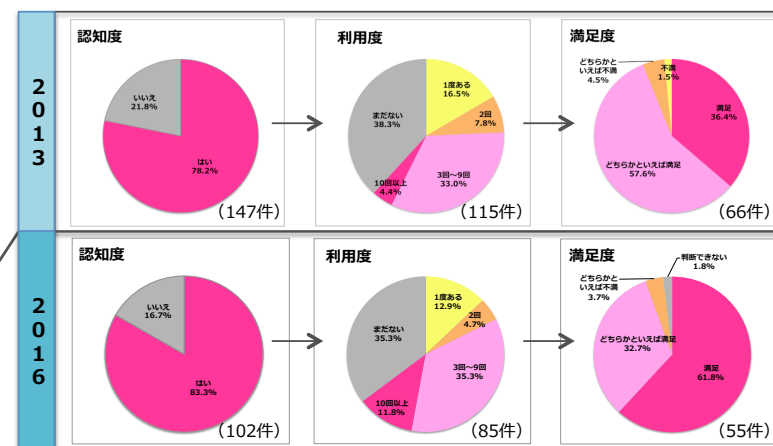


- 認知度：どの自治体も高まっている。特に西東京市と東村山市は大きく向上した。
- 利用度：東村山市は2013年度時は大変低かったが、今回の調査で大幅に改善されたことがわかる。小平市・清瀬市・西東京市では「まだない」の割合が若干減少したが、東久留米市は1.6%増加という結果となった。

凡例：グラフ右下かっこ内の数値はサンプル件数

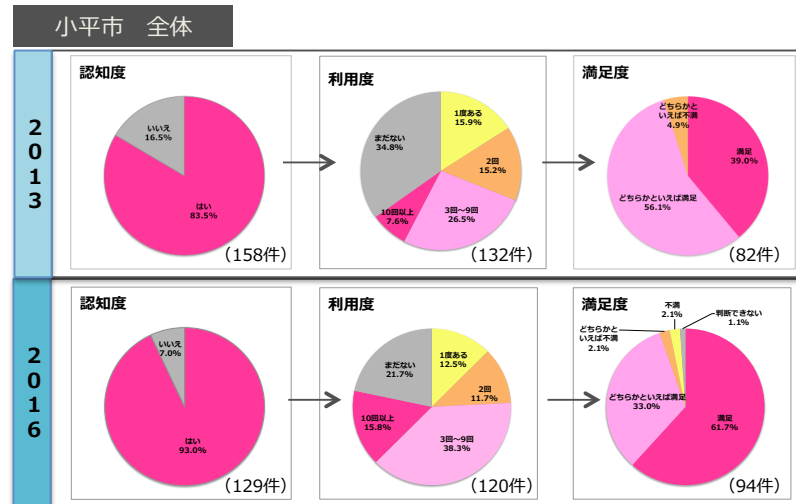


- リピーターの利用度：東久留米市は若干の伸びに止まったが、その他の4市は3回以上利用のリピーターが増え、この3カ年で10回以上利用の割合が大幅に伸びていることがわかる。
- 満足度：どの自治体も高くなっている。東久留米市が他市に比べると、低い傾向が見られる。東久留米市住民は、科学館へのアクセスがよくないため、それが結果に反映されていると思われる。



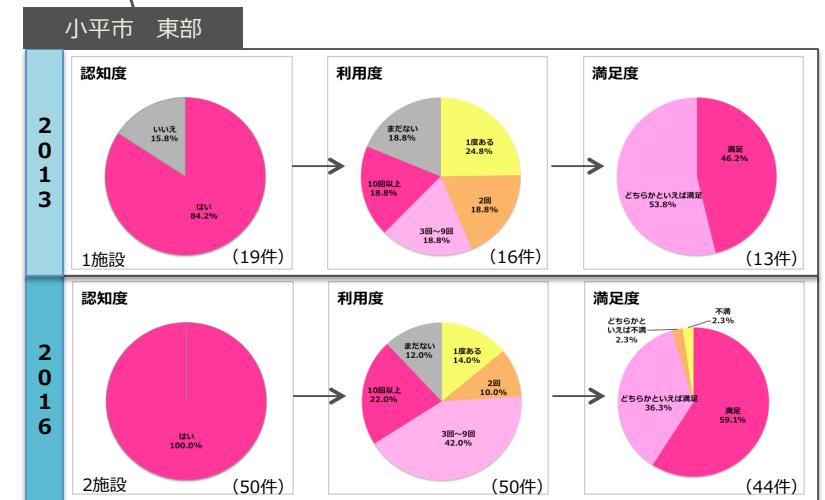
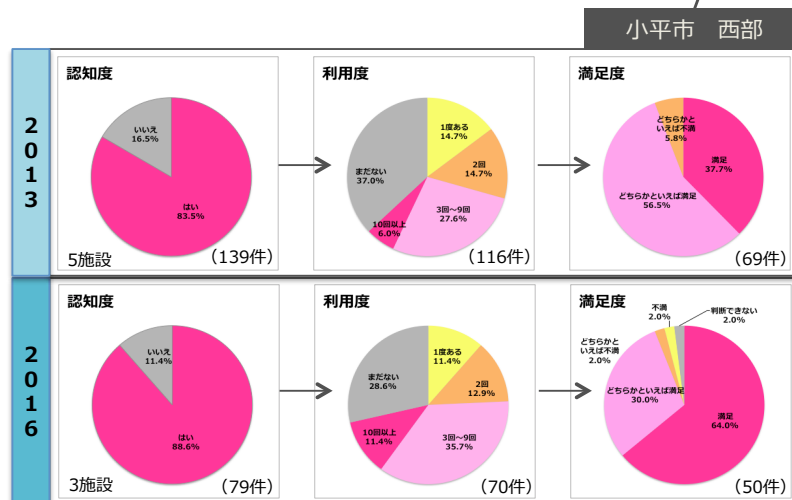
註 自治体別：被験者の居住地別ではなく、自治体別に選定した調査実施施設で採取したサンプル総数で、2013年度と2016年度のデータを比較

1. 圏域市民調査 (1) 多摩六都圏域における科学館の認知度・利用度・満足度 ③小平市 東西の比較

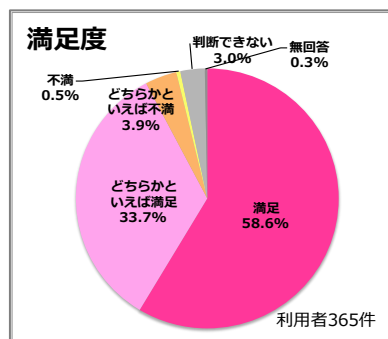


凡例：グラフ右下かっこ内の数値はサンプル件数

- 小平市の場合は、多摩六都科学館へのアクセスの条件によって、東西で認知度・利用度に違いが生じている。
- 3カ年で利用度は東西エリアともに増えており、3回以上のリピーターが増えていることがわかる。
- また、2016年度の利用者の満足度は、東西エリアともに高まっている。



1. 圏域市民調査 (2) 満足度の理由・改善要望 自由回答のカテゴリー分析



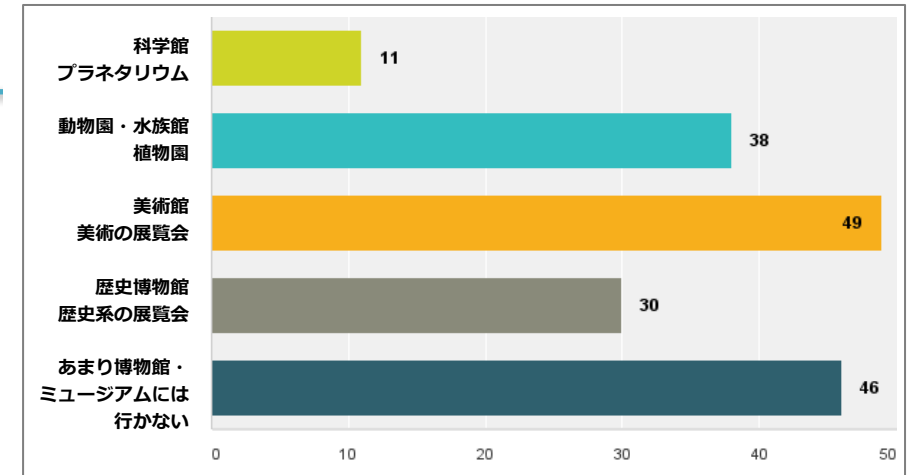
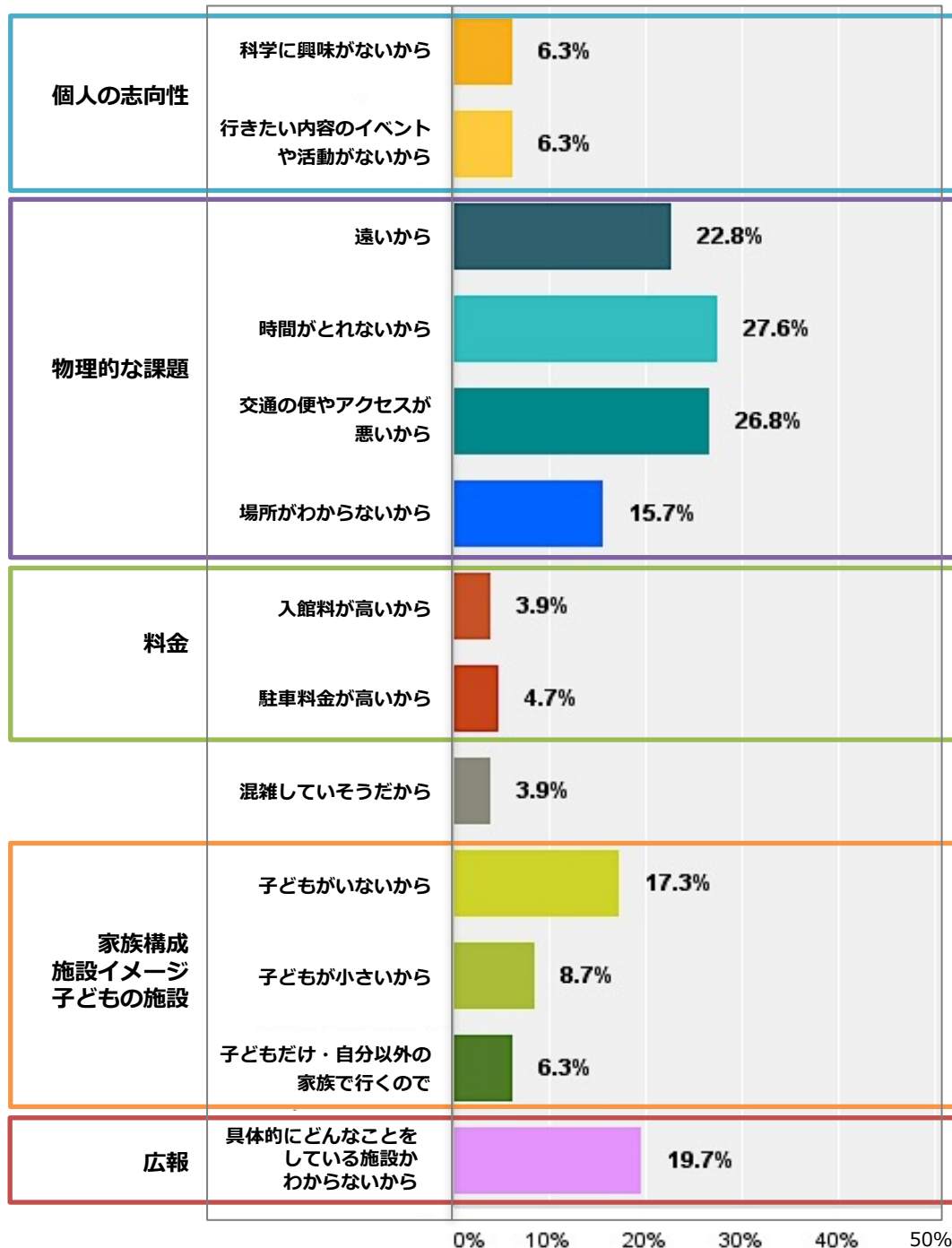
利用者の満足度は、「満足」「どちらかといえば満足」を合算すると9割強を占める。その理由の自由回答をカテゴリー分析すると下記の通りとなる。
展示やプラネタリウムの満足度が高い一方で、展示やイベントに関しては開催回数や内容の充実、専門的かつ他館に負けない内容を求める声が多いことがわかる。

大項目	中項目	小項目	件数	
満足な点	全般	子どもが楽しめる	13	
		楽しい・おもしろい（単に）	8	
		施設全体で楽しめる	5	
		気楽に楽しめる	3	
		誰と行っても楽しめる	4	
		身近にある科学館としての魅力	2	
		昔利用して満足した	5	
		施設	アクセス	3
	建物	1		
	館内・清掃	2		
	館外・庭	1		
	館内の雰囲気	1		
	ミュージアムショップ	2		
	図書コーナー	1		
	常設展示	楽しい、興味深い、良い	18	
		科学の興味喚起	18	
		子どもたちが楽しめた	8	
		体験型であること	6	
		勉強になった	5	
		クイズラリー	3	
		しくみの部屋	2	
		ちきゅうの部屋	2	
	企画展示	魅力的→来館目的	6	
	イベント	楽しい	2	
	プラネタリウム・大型映像	よい、充実している	18	
		映像の美しさや迫力	5	
		プラネタリウムが好き	3	
		プログラムが多様でよい	3	
		地元志向のプログラム	3	
		生解説	2	
		幼児にもわかる内容	2	
		その他	1	
		運営・ひと	年間パスポート	1
			ボランティアとの交流	1
	スタッフの対応		5	
件数			152	

大項目	中項目	小項目	件数
不満な点	全般	混雑	2
		その他	2
	施設	アクセス	3
		バリアフリー	1
		駐車場	1
		休憩施設	1
		エレベーター	1
	常設展示	内容	9
		機器の不具合	2
	イベント	内容	3
		申込	2
	プラネタリウム・大型映像	内容	2
		タイムテーブル	1
		チケットが取れない	1
		料金	1
運営	閉館時間	1	
	料金	1	
件数			34

大項目	中項目	小項目	件数
改善要望	施設	レストラン・カフェ	2
		アクセス	3
		休憩施設	3
		館外施設の有効利用	3
	展示	専門的かつ他館に負けない内容	10
		見学コースの設定	1
	イベント・企画展	開催回数や内容の充実	10
	プラネタリウム・大型映像	新作	1
		上映時間	1
	運営	宣伝・告知	4
		申込のシステムの改善	2
		年齢設定の見直し	1
		混雑対応	1
件数		42	

1. 圏域市民調査 (3) 未利用者の来館しない理由 ①全体



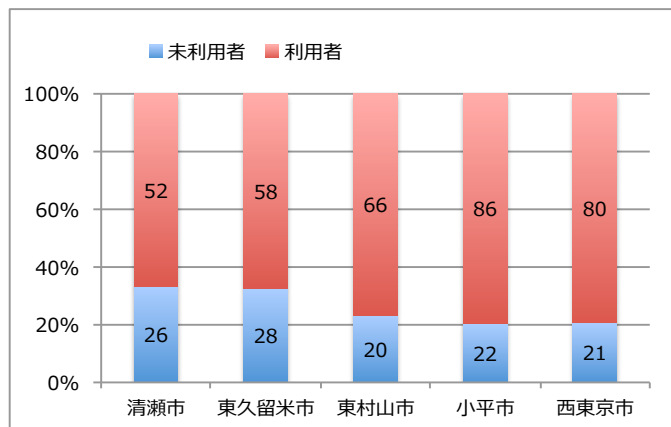
未利用者の場合、普段から博物館等の施設には行かない傾向が高いが、美術館や動物園・水族館・植物園などは利用している。
科学とアートや生きものとのコラボレーションした事業展開によって、集客アップを図れる可能性を感じる調査結果となった。

物理的な課題以外では、

- 家族構成や子どもの施設というイメージが強い
- 具体的に何をしているかがわからない
- 情報が届いていない

ことが阻害要因となっていることがわかる。

1. 圏域市民調査 (3) 未利用者の来館しない理由 ②自治体別



(グラフ内の数値は、パーセントではなく、サンプル件数を表示)

5市の居住者(459件)の未利用者の割合：
未利用者の割合は、清瀬市、東久留米市が、他3市から比べると多い傾向が見られる。

* 上図（グラフ）および下表の5市の順番：未利用者の割合が多い順番に左から記載

	清瀬市	東久留米市	東村山市	小平市	西東京市
交通の便・アクセスが悪いから	10	6	6	7	3
場所がわからないから	7	4	5	3	0
遠いから	10	0	6	4	2
時間がとれない	6	8	5	4	5
具体的にどんなことをしている施設かわからないから	5	6	4	4	5
子どもがいないから	7	4	2	3	5
子どもが小さいから	2	1	0	2	5
子どもだけ・自分以外の家族で行くので	2	4	2	0	0
科学に興味がないから	3	0	2	2	1
行きたい内容のイベントや活動がないから	4	1	1	0	0
入館料が高いから	0	0	1	2	2
駐車料金が高いから	1	2	1	1	0
混雑しているから	0	1	2	1	0
計	57	37	37	33	28
5市住民の未利用者数	26	28	20	22	21
未利用者が複数回答で選択した理由数・平均値	2.2	1.3	1.9	1.5	1.3

5市居住者の未利用者（111件）の利用しなかった理由を比較：

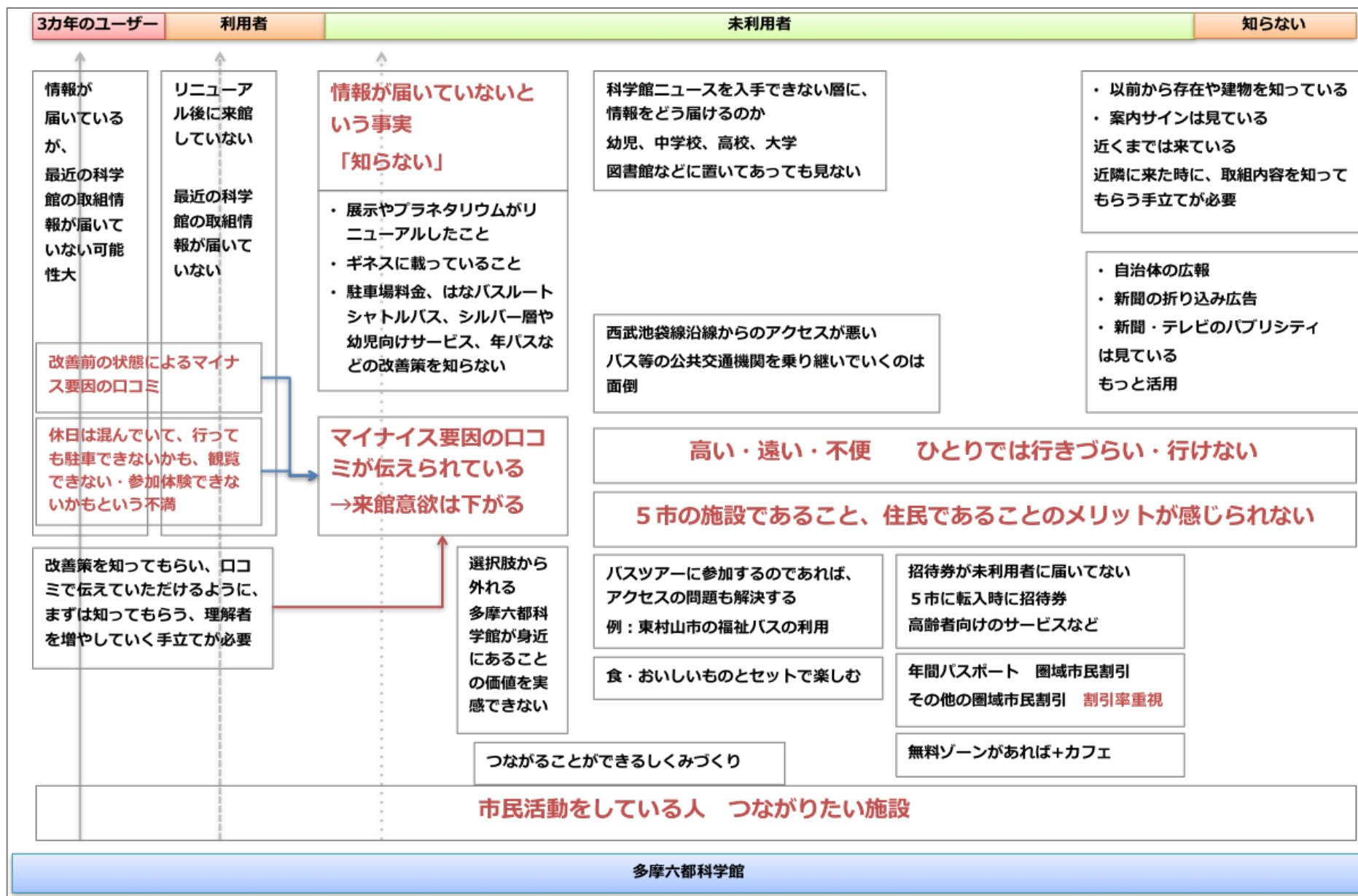
- 清瀬市の場合、「交通の便が悪いから」、「遠いから」が他市と比べると多く、複数回答で選択している理由数も他市と比べると多い傾向が見られる。
- 東久留米市の場合は、若干「交通の便が悪い」をあげている人もいるが、一番多い理由は「時間がとれない」となっている。他市と比べると「具体的にどんなことをしている施設かわからない」が若干ではあるが多い傾向が見られる。
- 東村山市は、はなバスのルート変更などによってアクセスが改善されているため、清瀬市よりも物理的要因をあげる件数が少なめとなっている。
- 小平市は、「交通の便が悪い」が多めだが、その他の要因は低めとなっている。西部エリアのアクセスが改善されれば、利用度は高まると思われる。
- 西東京市の場合は、他市と比べると利用しない要因へのストレスが低いことがわかる。今後は具体的な活動内容や幼児から高齢者まで幅広い年代が楽しめる施設であることを周知していく必要性を感じる結果となった。

住民が利用しない阻害要因やストレスを感じている度合い

ストレス大				ストレス小	ストレスなし
10～9	8～7	6～5	4～3	2～1	0

2. 未利用者調査 フォーカスグループインタビュー結果概要

- 未利用者には情報が届いていない、高い・遠い・不便という物理的な阻害要因が大きいことが明確となった。
- 年齢に関係なく、ひとりでは行きづらい（心理的）、行けない（身体的・交通手段を確保できない）と答える人が多かったが、食事も含めてのバスツアーなどの企画があれば参加したいという意向が強いことがわかった。
- また、利用者のマイナス要因の口コミが、未利用者の来館意欲を削ぐ「負のスパイラル」があることがわかった。



3. 中期事業評価 (1) 業績指標の設定

指標ならびに評価基準の設定

3つの観点から、16の指標を設定

1. 多摩六都科学館の設置目的から設定
2. 基本計画に定められた使命・事業目標・長期的な成果から設定
3. 今後、力を入れて取り組みたい方向性も加えて設定（★印）

2つの評価軸

1. 実現度・達成度：3力年でどれくらい実現できたか（現段階）
2. 重要度・期待度：今後、どれくらい重要か、市民として期待しているか（将来）

4段階評価

大に思う・やや思う・あまり思わない・まったく思わない
+判断できない

多摩六都科学館の役割・めざすべき方向性（中長期的な指標）

設置目的

- 次世代を担う子ども達の夢を育み、科学する心を養うことかてきる科学館
- 各世代にわたって生涯学習の推進に貢献できる科学館
- 地域の振興に役立つ(寄与できる)科学館

+

基本計画

使命

- 多様な「学びの場」をつくりあけている科学館（事業計画の重点指標）★
- 地域の皆さんをつなぎ、地域づくりに貢献する科学館（経営管理計画の重点指標）★

科学館事業 事業目標1

- 誰もが科学を楽しめる科学館
- 多様な「学びの場」をつくりあけている科学館（重点指標・使命とダブリ）★
- 生活の中で役立つ科学の知識が身につく、世界の課題を科学的な観点から考えることかてきる科学館（科学リテラシーの向上）

地域拠点事業 事業目標2

- 地域の人々か世代を超えて交流できる科学館
- 子どもを地域で育てる「居場所」となる科学館 ★

地域拠点事業 事業目標3

- 地域の資源(自然・文化・ひと等)を生かした運営を実践する科学館
- 活動の場を多摩六都圏域に広げ、体験型のプログラムや交流の場を提供する科学館 ★
- 多摩六都の魅力や地域資源の価値を再発見できる科学館 ★

マーケティング 事業目標4

- 自分の科学館・地域の科学館として市民から愛される科学館
- 多摩六都の誇りとなる、シンボルとなる科学館 ★
- 交通の便(公共交通等)を改善し、利用しやすい科学館

財政・体制 事業目標5

- 多くの地域住民が参加し、盛り上げていける科学館
- 地域の皆さんをつなぎ、地域づくりに貢献する科学館（重点指標・使命とダブリ）★

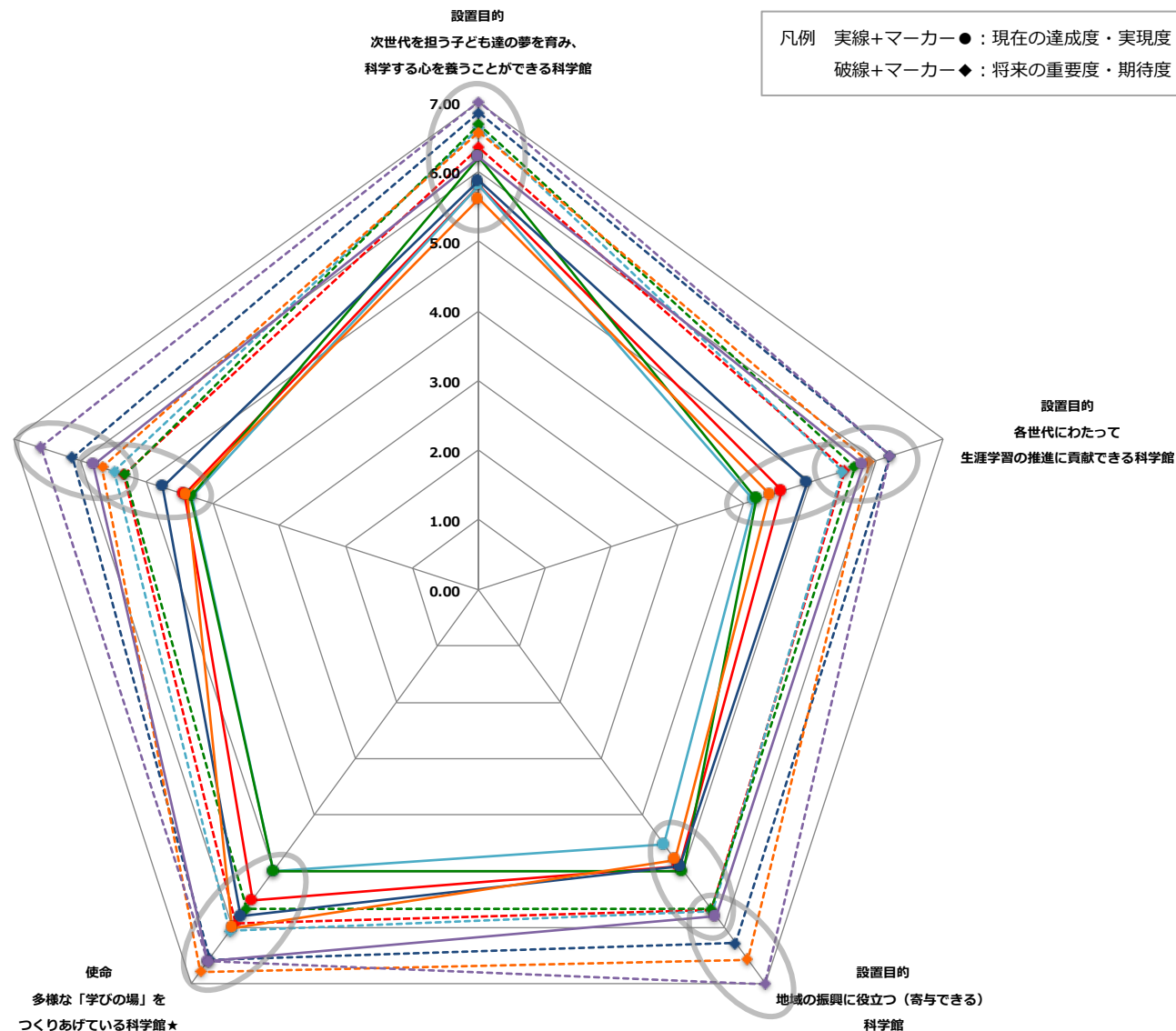
3. 中期事業評価 (2) 設置管理条例の目的ならびに第2次基本計画の使命 調査1～4の横断的分析結果／様々なステークホルダーの評価

多摩六都科学館 ステークホルダー別

設置目的・使命 中期事業評価



- 設置目的も使命も、科学館事業に該当する指標は、達成度も重要度も高い傾向が見られる。特に「次世代を担う子ども達の夢を育み、科学する心を養うことができる科学館」としての役割は、すべてのステークホルダーで重要視されていることがわかる。
- 生涯学習・地域貢献・地域づくりに関する指標は、現状の達成度はやや高い程度だが、今後の重要度に関しては高く、現状とのギャップがあることがわかる。



3. 中期事業評価 (3) 第2次基本計画の事業目標 調査1～4の横断的分析結果／様々なステークホルダーの評価

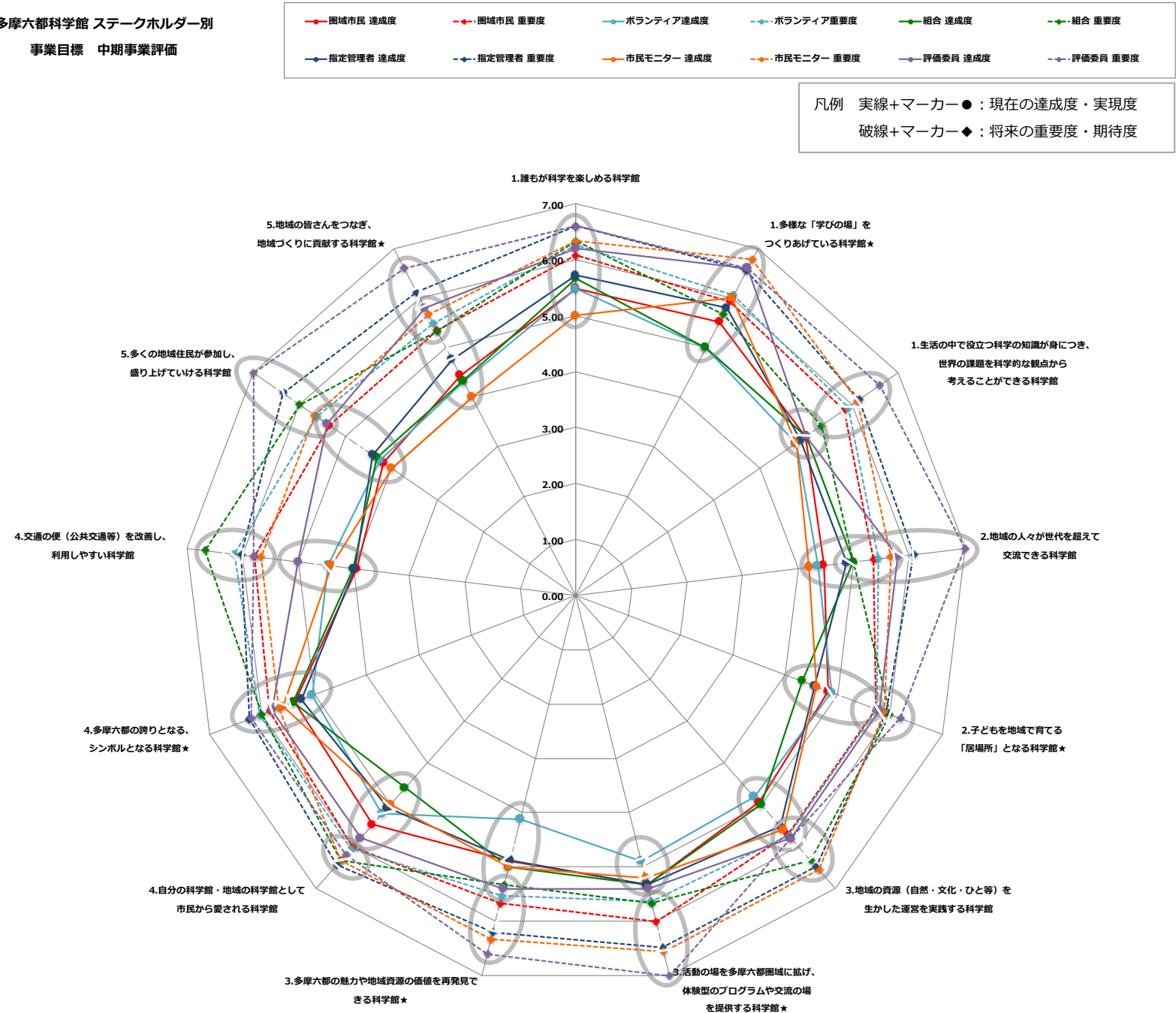
達成度

- 事業目標毎の指標を比較してみると、事業目標1・科学館事業の3つの指標とも、評点5以上となっており、達成度が高いことがわかる。
- 事業目標4のマーケティングでは、シンボル、愛される科学館の指標は高いが、交通の便に関する指標の達成度は低い。
- 地域拠点事業の2と3の指標のうち魅力発信の3の指標は高い傾向が見られるが、2の交流拠点の指標の達成度は低い傾向が見られる。
- 事業目標5の市民参画型の運営に関しても達成度は低い傾向が見られる。

重要度

- 重要度は、ステークホルダーによって意見が分かれている指標が見られる。市民参加による運営、アウトリーチ活動、世代を超えた交流。これについては、今後の方針を検討する必要があると言えよう。
- 地域拠点事業3（多摩六都の魅力発信）については、重要度も高い傾向が見られ、広域連携プランにおける政策的な役割とも合致していると言えよう。

多摩六都科学館 ステークホルダー別
事業目標 中期事業評価



3. 中期事業評価

(5) 3年間の活動から事業価値・地域貢献度を評価

調査1～4の横断的分析結果／様々なステークホルダーの評価

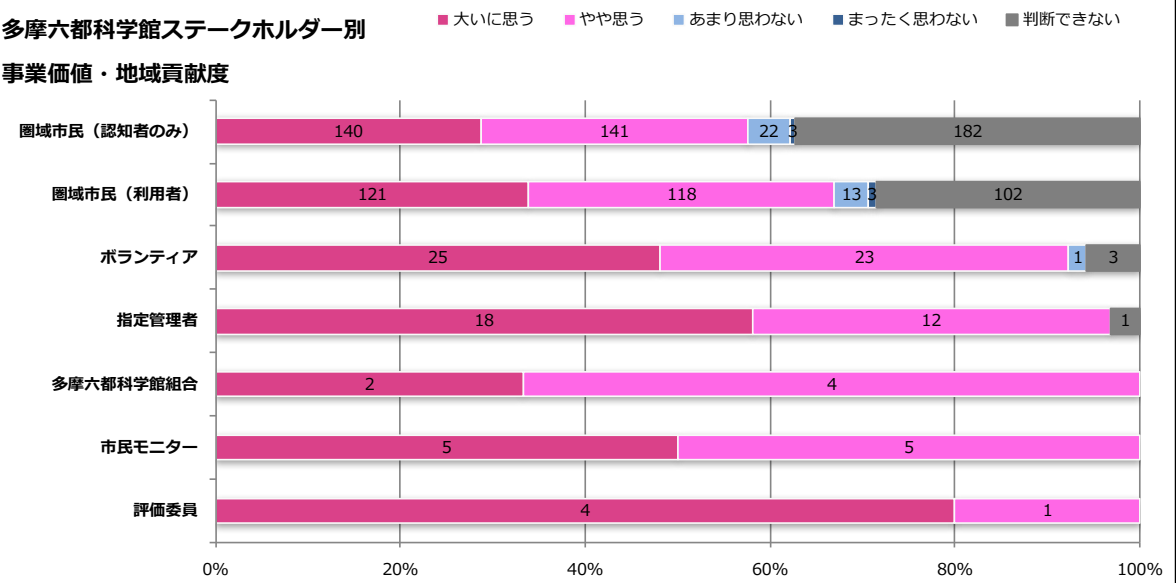
設問

多摩六都科学館のここ3年間（平成26年度～平成28年度）の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われますか。4段階の度合いでお答えください。判断できない場合には「判断できない」を選んでください。

- 事業関係者は回答できているが、圏域市民では「判断できない」を選択している人が3～4割を占めている。科学館が「地域づくり」への貢献をめざしている存在だという認識が希薄なためと思われる。
- 「判断できない」を除いた場合、ステークホルダーのほとんどが事業価値や地域への貢献度を認めていることがわかる。
- 主たる事業者である指定管理者と圏域市民をつなぐ立場であるボランティア・市民モニターが両者の中間の数値を占めていることが興味深い。一歩引いた立場で評価できるボランティアと市民モニターの意見や要望は、利用者の代弁者として今後も重視すべきと言えよう。
- 専門的かつ第三者的立場で評価を下している事業評価委員の評価が高い。他館と比較してみた場合、高評価であることがわかる。

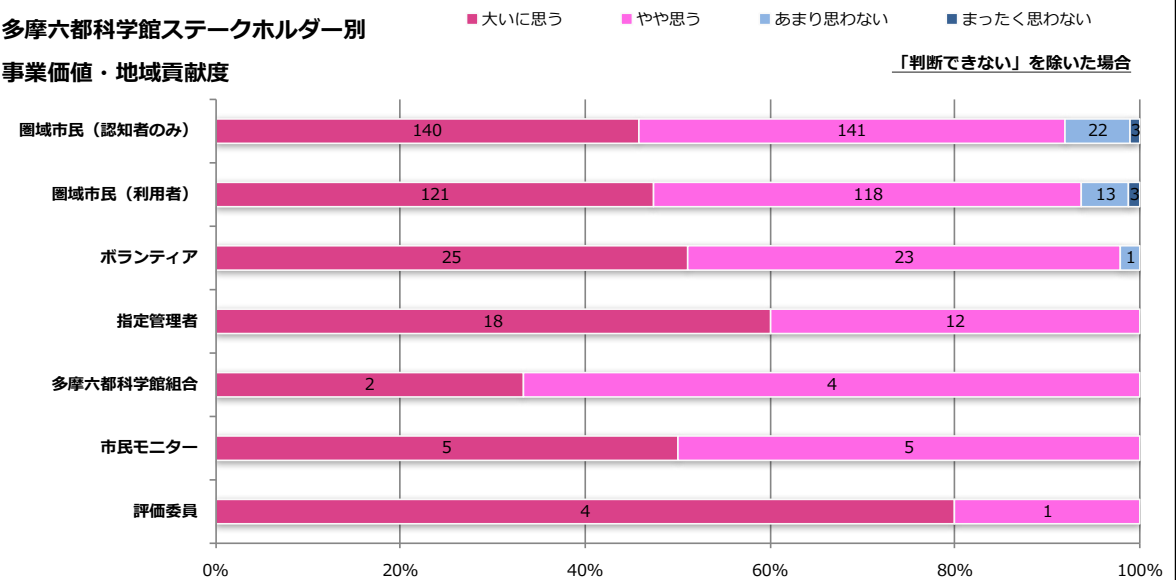
多摩六都科学館ステークホルダー別

事業価値・地域貢献度



多摩六都科学館ステークホルダー別

事業価値・地域貢献度



（グラフ内の数値は、パーセントではなくサンプル件数）

多摩六都科学館 第2次基本計画
平成26年度～平成35年度（2014年度～2023年度）

ローリングプラン2016（案）

- 発行日 **平成29年3月**

- 発行 **多摩六都科学館組合**
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町5-10-64
電話：042-469-6982
ファクシミリ：042-469-7575
URL：http://www.tamarokuto-sc.or.jp

- 基本計画改定案作成業務委託機関
有限会社プランニング・ラボ
〒171-0052 東京都豊島区南長崎6-5-17
電話&ファクシミリ：03-5983-0592